

2019年度東北学院大学研究ブランディング事業主催
第3回ジョン・ラファージ研究シンポジウム

ボストン・ブラーミンのキリスト教と仏教 教義と寛容

Christianity and Buddhism in 19th-Century Boston
Dogma and Tolerance



日本滞在中(1882-89年)のビゲロー
Courtesy of Roger Warner



ロックウッド画『ラファージ肖像画』1891年
ボストン美術館蔵 www.mfa.org



日本滞在中(1889-93年)のローウェル
Courtesy of Carol Bundy

日本近代の美術に大きな役割を果たしたフェノロサ、またボストン美術館にある在外日本美術の最大のコレクションを形成したビゲローは1885年に三井寺法明院で櫻井敬徳師によって得度した。ふたりはともにボストンのハーヴァード大学出身のユニテリアンであった。キリスト教の教義にこだわらず、寛容であるがゆえに脆弱のそりも受けることもあるユニテリアンのキリスト教は近代日本の初期の若者を大きな影響を与えた。日本におけるキリスト教受容を、逆にアメリカからみてみよう。フェノロサ、ビゲローと同じく、やはりハーヴァード大学の出身でアメリカの著名な仏教研究者であるボストン・カレッジ教授のダヴィッド・エッケル氏、そしてビゲロー研究のロジャー・ウォーナー氏とパーシヴァル・ローウェルの縁故者であるハーバード大学講師のキャロル・バンディ氏をお招きして、アメリカ側からボストンにおけるキリスト教と仏教、つまり宗教の寛容について考える。

入場無料
申込不要

通
訊
付

2019年12月21日 土 13:30~17:00

直接会場にお越しください

場所 土樋キャンパス／ホーイ記念館ホール

趣旨説明

東北学院大学教授

鐸木 道剛 (すずき みちたか) 「宗派を超える芸術:ジョン・ラファージのステンドグラス」

パネリスト

ボストン大学教授

David Eckel (ダヴィッド・エッケル) The Boston Buddhists; Ernest Fenollosa and William Sturgis Bigelow

歴史家・編集者

Roger Warner (ロジャー・ウォーナー) The Great Escape of William Sturgis Bigelow

ハーバード大学講師

Carol Bundy (キャロル・バンディ) From Japan to Mars: The Long Strange Journey of Percival Lowell

謝辞: 本シンポジウムの開催にあたり、村形明子氏の遺志による基金から支援をいただいております。